

2019年度 関西学院初等部 学校評価を終えて

関西学院では、2008年度に初等部が開校して以来、初等部・中学部・高等部が共同し、一貫性のとれた学校評価制度を構築し、互いに連携を取り、学校評価の実施と結果の公表に取り組んできました。

2010年度からは、幼稚園から大学院まで連なる関西学院の強みを生かし、接続する学校園の先生方に、専門的な視点からのご意見を伺うことで第三者評価と学校関係者評価の両方の性格を併せ持つ「第三者評価／学校関係者評価」を導入しています。

2019年度の初等部の取組は、「キリスト教主義教育」、「教育課程・学習指導・学校行事」、「生徒指導」、「研修（資質向上の取組）」の4項目を重点として、評価項目を設定しました。

評価の実施にあたっては、各項目について児童、保護者、教員にアンケート調査を実施し（回収率①児童 99.7%、②保護者 75.2%、③教員 100%）、それぞれの立場からの回答を得ることにより客観性を確保するとともに、回答者個々の意見も重視するよう努めました。

次に、アンケートの集計結果を分析するとともに、各重点項目についての初等部の取組状況を教職員が総括し、今年度の取組に分析、評価を加え、今後の改善の具体的方策を示し、初等部の自己点検・評価としました。加えて、今年度からアンケート調査に関西学院のスクールモットー “Mastery for Service” についての質問を、「学院共通項目」として設定しました。

さらに、それらについて接続する学校園関係者の関西学院幼稚園長、中学部長、教育学部准教授の専門的視点に基づくご意見を「第三者評価／学校関係者評価」とし、合わせて初等部の学校評価としてまとめました。

本日、学院総合企画会議（短大・各学校内部質保証部会）（2020年3月13日）において、初等部の学校評価が協議・承認されました。

初等部は関西学院がめざす世界市民の育成にむけた全人教育の土台を培う大切な役割を担っていることをしっかりと自覚し、子どもたちが生涯にわたって “Mastery for Service” の体現をめざしていけるよう、教員の力量を高め、保護者の理解と協力を得て、より質の高い教育活動を展開しなければなりません。

関西学院初等部として、本学校評価を真摯にとらえ、教職員一人ひとりが自らの課題を探り、組織としてその課題解決に向かって取組を進め、今後もさらなる改革を図ります。

2019年度初等部の学校評価を項目別に次頁以降に記し、ホームページ上で公表することにより、社会的信頼を高めるよう努めたいと考えています。

2020年3月13日

関西学院初等部

校長 田近敏之

学校評価

教育理念・使命・目標

【教育理念・使命】

キリスト教主義教育に基づく全人教育の「はじめの一步」を担う。

【目標】

キリスト教主義教育を土台とした「建学の精神」を体得し、スクールモットーである“Mastery for Service”の実現をめざし、知性・情操・意志を備えた児童を育てる。

【初等部聖句】

「幼子はたくましく育ち、知恵に満ち、神の恵みに包まれていた」

[意志]

[知性]

[情操]

2019年度の評価項目

- ・キリスト教主義教育
初等部の教育の根幹をなすものであるため、評価項目として設定した。
- ・教育課程・学習指導
教育理念にふさわしいカリキュラムを編成するために、この項目を設定した。
- ・生徒指導
児童が安心して生活できる学校づくりをめざしているため、この項目を設定した。
- ・研修（資質向上の取組）
より質の高い授業の実現を図るため、毎年この項目としている。

2019年度の評価項目とテーマ、自己評価、目標、具体的な取組の状況とその効果に対する評価、今後の方策

評価項目 【テーマ】	キリスト教主義教育 【キリスト教主義に基づく、たくましい生き方の育成】	自己評価	A
目標	建学の精神に基づき、キリスト教主義教育を初等部のあらゆる教育活動の中で展開し、児童がキリスト教の精神やスクールモットー“Mastery for Service”の精神を体得できるようにする。そのためにすべての教員、また保護者がその精神について共通理解を持ち児童に向き合えるようにする。		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<p>（具体的な取組の状況）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初等部では毎朝の礼拝、全学年週1時間の聖書科授業、特別礼拝、各宗教行事を土台にして、児童・保護者・教職員が建学の精神、スクールモットー“Mastery for Service”を共有し、様々な教育活動の中でキリスト教主義教育を展開している。 ・保護者に対しては全学年保護者対象の「聖書講座」「教育講座」（各年3回）をはじめ、PTA活動との連携による「聖書と讃美歌に親しむ会」（各学年ごとに年1回開催）でキリスト教主義教育の理念を共有する機会を設けている。また児童と共に礼拝を守る機会を提供している。さらに新入生の保護者に対しても、入学前の2回のオリエンテーション、入学後のオリエンテーションで、初等部のキリスト教主義教育について講話を行い、入学前よりキリスト教主義教育の理念を共有する機会をもっている。 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員に対しては「キリスト教研修会」を実施し、具体的な聖書の学びを通して、キリスト教の考え方や価値観を共有し、キリスト教主義教育の担い手として、どのように子どもたちと関わっていくべきかを考える機会をもっている。 <p>(取組の効果に対する評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート質問2「こころの時間や聖書の時間は、あなたにとって大切な時間だと思いますか。」に対する肯定的な回答は96.1%であった。1年生の頃から礼拝や聖書を大切にしている心が育っていること、そして児童の中にキリスト教主義教育が深く浸透してきていることがこの数値から分かる。 ・児童アンケート質問3「“Mastery for Service” (マスタリー・フォア・サービス)を大切にすることを心がけて生活していますか。」に対する肯定的な回答は91.1%と高い数値を示している。すべての子どもたちが“Mastery for Service”の精神を体現しようと思えるように、日々の教育活動の中で“Mastery for Service”の意味や大切さを伝え続けていく工夫をしていく必要がある。 ・保護者アンケート質問3「学校は、キリスト教主義教育の理念について、保護者と共有する機会を設けている。」に対しては肯定的な回答の割合が99.0%と過去最高の数値となった。「聖書講座」「教育講座」「聖書と讃美歌に親しむ会」などの保護者対象講座が定着してきたことが高評価の理由と考えられる。 ・保護者アンケート質問4「学校は、キリスト教主義に基づき、人を思いやる気持ちや態度を育てている。」との質問に対しても、肯定的な回答の割合が91.5%と高い数値を示している。 ・保護者アンケート質問20「私は、関西学院のスクールモットーが“Mastery for Service”であることを知っている。」、保護者アンケート質問21「私は、関西学院のスクールモットー“Mastery for Service”に共感している。」、保護者アンケート質問22「学校は、“Mastery for Service”を体現する世界市民の育成につながる教育を実践している。」との質問に対しても、肯定的な回答の割合が、それぞれ99.7%、99.2%、93.2%と高い数値を示している。この数値から保護者もまたスクールモットー“Mastery for Service”の精神とキリスト教主義教育の実践に理解と納得をしていることが分かる。 ・教員アンケート質問1「私は、礼拝や研修を通してキリスト教教育の理念を共有している。」に対する肯定的な回答が6年連続100%と全員が肯定的な回答をしている。 ・教員アンケート質問2「学校はキリスト教主義教育を学校生活の中で具体化している。」との質問に対しては肯定的な回答が96.7%となっている。教職員がキリスト教主義教育の理念を共有し、自らがキリスト教主義教育の担い手であるという自覚をもって初等部の教育の働きを担おうとしている。
<p>今後の方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・肯定的な評価が高いことに満足することなく、より深く、より充実したキリスト教主義教育を展開していくために、すべての教職員が自分たちこそキリスト教主義教育の担い手であるという意識をもち 関西学院の建学の精神であるキリスト教主義教育やスクールモットー“Mastery for Service”への理解を深めることのできる研修会を実施する。 ・何よりも毎朝の全校礼拝を丁寧かつ誠実に守ること、またクラスでの昼礼、終礼などの小礼拝が形式的にならないよう工夫をしながら、礼拝と祈りを大切にしていく。

	<ul style="list-style-type: none"> ・また聖書科授業や様々な宗教プログラム、また各学年・クラスでの活動を児童の実態に合わせて行うことにより、“Mastery for Service” をより具体的に感じられるようにしていく。 ・「聖書講座」「聖書や讃美歌に親しむ会」をより内容を充実させること、またホームページ、学校だより、学級だより、学年だよりなどの媒体を通して、キリスト教主義教育の意味をより深く共有していく。
--	--

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導・学校行事 【真理を探究する確かな学力の育成】	自己評価	B
目標	「キリスト教主義に基づく全人教育による人間形成」を念頭に「各教科の特性や児童の興味・関心に応じた教育課程の工夫」また、「学力の的確な把握の上の学習指導」「豊かな情操を育む芸術文化活動」をめざす。		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<p>(具体的な取組の状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020 年度学習指導要領改訂に向けて、シラバスを見直し、教科の特性を踏まえた学習内容、また児童の興味関心を鑑み、重点をおくべき単元や内容に合わせた時数設定を行った。 ・とりわけ高学年においては教科担任制を行い、より教科の専門性を高めた授業を行ったり、学習内容に系統性をもった授業づくりに努めた。また、児童の学力把握、及び推移に努めた。 ・「KGタイム（「こころ」の時間・「風」の時間・「力」の時間・「光」の時間）」では、教科学習では得られない内容を系統的に構成した。 ・特に「光」の時間は、学習指導要領改訂に伴い、英語学習が必修となることを鑑み、先進的な取り組みとして、これまでの学習内容をブラッシュアップしたり、少人数指導を取り入れたりして、より高いコミュニケーションスキルの向上に努めた。また、引き続き、6 学年でのカナダコミュニケーションツアーの実施、4 学年、及び5 学年での大学留学生との交流会を実施し、異文化交流を深めた。 ・「的確な学力把握」を行うために、通知書における評価規準の見直しを行った。また、学習の到達度を把握するための期末テストや全国レベルの相対的な学力把握のために実力テストを実施した。さらに、学力不振児童については補習を行い、学習習慣の定着と学力向上を図った。 ・例年ではあるが、「体育祭」「音楽祭」「作品展」「マラソン大会」を実施し、児童のさまざまな個性を生かし、活躍できる場を設けた。また、各行事で学びをより深めるために、その都度、特別時間割を設け、より集中して取り組めるよう環境を整えた。 ・中学部との交流、各学年での社会科見学、プログラミング体験を行う出前授業、さらに全校児童対象に行う「文化芸術教室」など本物に触れる機会を数多く実施した。 <p>(取組の効果に対する評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート質問5「授業は楽しいですか。」の問いに、82.4%の肯定的評価が得られている。しかし、前年度(89.2%)の6.8ポイントの減である。加えて、14.8%があまりそう思わないとも答えている。それは、児童アンケート質問4「授業では新しいことをたくさん知ることができますか。」での肯定的評価89.2%、児童アンケート質問6「授業はわかりやすいですか。」での肯定的評価90.8%とわずかであるが昨年 		

度 92.9%からポイントを下げていることと関係があると言える。この点についての把握が必要である。

- ・保護者アンケート質問8「学校は、基礎的知識や技能が定着する授業を行っている。」肯定的評価 85.4%、さらに質問9「学校は基礎的知識や技能を活用する場面を取り入れた授業を行っている。」肯定的評価 85.5%とそれぞれポイントを上げている。昨年度は一旦ポイントを下げた質問であるが、これについては授業の工夫や補習の取り組みが評価されたと言える。それは、質問10「学校は、楽しく分かりやすい授業にするために工夫している。」での肯定的評価 89.5%からも推察される。
- ・保護者アンケート質問5「学校は、子どもの学力を把握している。」肯定的評価 88.3%と、前年度からはわずかであるがポイントを上げている。しかし、保護者アンケート質問6「学校は、子どもの学力を保護者にきちんと伝えている。」での肯定的評価は 83.9%と 2.4 ポイント下げている。決して低評価とは言えない。しかし個人懇談で通知書を提示し、評価について話をするだけでは十分でないことも否めない。学力把握を保護者とともに共有するためのさらなる方策が必要であると考えられる。
- ・教員アンケート質問4「私は、児童の客観的な学力把握に努めている。」90.0%、教員アンケート質問5「私は、評価規準により、的確な評価を行っている。」肯定的評価 96.6%といずれも低くはないが、来年度の学習指導要領改訂に伴う、通知書の改訂に活かしたい。
- ・「KGタイム」について、児童アンケート質問8「『風』の時間」は好きですか。」では 86.4%、児童アンケート質問9「『力』の時間」は好きですか。」では 81.6%の肯定的評価である。いずれも昨年度からポイントを下げている。また保護者アンケート質問11「学校は、『風』の時間を通して、豊かに言葉を使える力を育てている。」では 84.5%、保護者アンケート質問12「学校は『力』の時間を通して、論理的に思考する力を育てている。」では 80.3%の肯定的評価であった。さらに、教員アンケートでは質問9「学校は、『風』の時間を通して、豊かに言葉を使える力を育てている。」では 73.3%、質問10「学校は、『力』の時間を通して、論理的に思考する力を育てている。」では 75.8%の肯定的評価にとどまっている。「KGタイム」については、例年学習内容の見直しを行っているが十分でなく、学校行事等での特別時間割時には、十分な時間確保もされなかったことも要因である。来年度新しい教育課程を迎えるにあたり見直しの機会と考えている。
- ・一方で「KGタイム」の一角を担う「光」の時間については、児童アンケート質問10「『光』の時間は好きですか。」では、今年度 71.0%の肯定的評価を得た（前年度の児童アンケート質問9「英語は好きですか。」では、62.3%が肯定的評価であった）。からまた、児童アンケート質問11「『光』の時間の勉強はわかりやすいですか。」での肯定的評価 72.2%と、これまでの「光の時間」の評価から肯定的評価が大きく伸びたことが言える。さらに、保護者アンケート質問13「学校は、英語教育を通して、英語によるコミュニケーション能力を育てるとともに、基本的スキルを定着させている。」74.3%とこれについても前年度 70.2%から 4.1 ポイント評価を上げている。これらの「光の時間」の評価が伸びたことについては、昨年度からのALTとのTT授業の定着と今年度から始めた少人数指導、学習内容の充実、分かりやすい授業づくりなどが挙げられる。来年度に向けてその要因をさらに考察したい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術教育について、保護者アンケート質問 14「学校は、音楽、美術（図工）を中心として芸術教育を通して、豊かな感性を育てている。」では 92.4%の肯定的評価、児童アンケート質問 12「音楽や図工は好きですか。」では 95.0%の肯定的評価を得ている。さらに教員アンケート質問 12「学校は、音楽、美術（図工）を中心とした芸術教育を通して、児童の豊かな感性を育てている。」での肯定的評価は 93.4%となっている。豊かな情操を育てる上で、こうした芸術教育の重要性を皆が共有していることがわかる。また、それらを表現する場としてある学校行事は大切であり、児童の個性や気持ちを高める場となっている。
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度学習指導要領改訂に向けてのシラバスの全面見直し。 ・評価項目及び評価規準の見直しを含めた通知書の作成 ・「KGタイム」の抜本的見直し。（力の時間の算数、風の時間の国語、光の時間の英語への改編） ・英語の学習内容、学習環境、時数の見直し（高学年の1時間増）

評価項目 【テーマ】	生徒指導 【児童が初等部での生活を、安全かつ安心して送ることができるような指導を行う。】	自己評価	B
目標	児童が社会の一員として責任ある態度を持ち、学校生活のきまりを守ることができるようにする。そのために、学年の発達段階に応じた自己判断を促すようにする。		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<p>（具体的な取組の状況）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度までの生活指導の後理念を継承し、今年度は、児童が自らの判断で学校生活のルールを守ることができるような場面を増やした。 ・教師による立哨体制を見直し、2学期からは駅のホームでの立哨も行うようにした。PTA登下校サポートでも校外委員会と協力し、立哨位置を精査し、児童の見守りがよりよく反映されるような体制を整えてもらうことができた。これまで同様、関西学院同窓会宝塚支部の有志の方々に構成されるスカイレンジャーズの皆様による見守りを受け、安全確保に努めることができた。 ・PTAの役員会、校外委員会を中心とした各委員会、学年学級代表と連携し協力を仰ぎながら、児童の学校生活がより安全で、より豊かなものになるように進めてきた。 ・仲間づくりでは6学年の縦割り班をつくり、毎日の清掃活動を同じ場所で共に協力しながら取り組むようにすることで、上級学年には責任感、下級学年には仲間意識の高まりが感じられた。仲良しランチとして、縦割り班で昼食を一緒に食べる機会を持つようにして、互いをより知り、豊かな人間関係づくりが進むような活動を取り入れた。 ・校長室会、教師会では、学事委員会から日々の生活指導案件や児童の様子、時期に合わせた生活指導の要点などを伝え、事前の指導を強化することにも重点を置いてきた。 ・避難訓練は火災（5月）、地震（1月）の2回、さまざまな災害に備えておこなった。本年度も昨年度同様、1月の地震避難訓練は従来とは違い、事前予告なしで昼休みの時間帯に実施した。 ・登下校での安全指導については、年間3回の地区班集会和1・6年生のペア下校を行った。地区班集会でそれぞれの通学経路での課題や安全確保の方法、車内態度やエ 		

	<p>チケット、マナー、そして初等部のルールについて確認、指導してきた。1・6年生だけがペアでの下校をおこない、6年生が1年生の登下校の不安をやわらげ、安全を確保して仲良く下校することができた。安全を意識する具体的な場所でその都度、上級生から教えてもらうことは1年生にとって有意義であった。</p> <p>(取組の効果に対する評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度、重点を置いてきた「学校のきまりを守ること」「元気よく挨拶をすること」について、児童アンケート質問13「学校のきまりを守って生活していますか。」に対する肯定的な回答は85.5%（前年度79.8%）、児童アンケート質問14「だれにでも元気よくあいさつしていますか。」に対する肯定的な回答は92.0%（前年度88.7%）と、昨年度を上回る回答を示しており、児童の意識の高まりが見られる。しかしながら、同様の項目での保護者アンケート質問15「学校は、集団生活に関するルールやマナーについて、適切な指導をしている。」に対する肯定的な回答は88.2%（前年度90.8%）、保護者アンケート質問16「学校は、しっかりと挨拶ができるように指導している。」に対する回答は83.2%（前年度85.1%）であり、ポイントを落としている。児童の意識の高まりが、保護者には十分なものとして理解されていないものと考えられる。 ・教員アンケート質問13「私は、挨拶や時間厳守など、社会生活をする上での基本的なマナーが児童に身につくよう適切に指導している。」質問14「私は、命の大切さや良好な人間関係をつくることなどについて、学校生活の中で指導している。」質問15「私は、児童間の人間関係を円滑にするための配慮、指導をしている。」質問16「私は、一人ひとりの子供が安心して学校生活を送れるように、配慮、指導している。」の4つの質問に対して、いずれも10%以上の否定的な回答が見られた。これは、教師間での指導の方向性の確認が不足しているものと考えられる。 ・各学年の発達の段階に応じた、自ら考えルールを遵守する姿が、登下校中の姿で見ることができた。保護者の「登下校サポート」の意見の中にも、そのような姿を見かける意見が多くみられた。 ・低学年については、自ら判断するということがまだ難しい場面が多く、1年生を中心にきまりをしっかりと覚えさせる指導の工夫を図る必要がある。
<p>今後の方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度、アンケートの結果から見えてきたものは、「学校のきまりを守ること」「元気よく挨拶をすること」に対する児童の意識の高さほどには保護者の評価は高くなく、教員の指導に対する意識もそれほど高くないということである。今後は、保護者にも生活指導の方針を理解していただく方法を考えていく必要があり、教員間においてもルール・マナーを守ることの意識の共有を図っていく必要性を感じる。具体的には、PTAの役員会において、さらなる協力を求めたり、学事からのお知らせをとして各家庭にプリントを配布したり、教師会等で、教員間においてもさらなる共通理解を図ることができるよう話をしていく。

<p>評価項目 【テーマ】</p>	<p>研修（資質向上の取組） 【“Mastery for Service” の体現 ～関わり合いの質を高める～】</p>	<p>自己評価</p>	<p>B</p>
<p>目標</p>	<p>ミッションステートメントの主旨には、「他者への関心と思いやり」が“Mastery for Service”を支えるとある。「他者と対話し共感する能力」を持ち「よりよい世界を創造」することが我々のミッションである。初等部での教育活動が、こうした力の獲得をめざすものであることを常に確認し続け、それに応えうる教員集団としての資質向上をめざす。</p>		
<p>具体的な取組の状況とその効果に対する評価</p>	<p>（具体的な取組の状況）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校公開 全国の教員及び一般希望者に対して、初等部の授業を公開（昨年度までは1日開催であったが、本年度より二日間開催 2/14・15）。約500名の参加者（定員500名）に対して、合計22本の授業を公開し、参加者とともに事後検討会を行った。奈須正裕教授（上智大学：文科省学習指導要領解説者）による講演や作家重松清氏による講演を企画。全体会においては6年生による合奏・合唱を披露した。 ・大授業 年間4回（昨年度までは3回）、それぞれ1名の教員の授業を全教員で参観し、意見を交わす会を実施した。事前検討会は模擬授業形式。事後検討会では、チームに分かれて議論し、共有した。 ・小授業 各教員は年に一度、必ず授業を公開する。参観できる教員が積極的に参観する形式。本年度は、各教員の希望に応じAタイプ（事前検討会に重点を置く）Bタイプ（事後検討会に重点を置く）が選択された。他教員との協議を踏まえて授業をリデザインしたものを学校公開の紀要に掲載した。 ・指導案の形式改定 昨年度より「個人研修テーマ」を設定している。学習指導案には、その個人研修テーマに対するアプローチについて記す形式を採用した。 ・講演会 河村茂雄教授（早稲田大学教育学部・学級関係診断QU開発者）を招き、アクティブラーニングを行える集団作りについて学んだ。 ・読書会 研修委員会から提案したリストの中から書籍を選択し、各学年で読書会を開いた。あらかじめ課題本を読み、それぞれの気づきを共有した。また、その話し合いを文字に起こし、学校公開の紀要に掲載した。 ・映画鑑賞会 『世界の通学路』を全教員で鑑賞し、教育を希求する思いや学びへの食欲さについて問い直した。 <p>（取組の効果に対する評価）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート質問3において「“Mastery for Service”を大切にすることを心がけて生活していますか。」という項目が新設された。児童の91.1%が肯定的評価を示していることは、研修テーマに見合った結果だと言える。限りなく100%に近づきたい。質問5「授業は楽しいですか。」の肯定的評価が82.4%（前年度89.2%）、 		

	<p>質問6「授業はわかりやすいですか。」の肯定的評価が90.8%（前年度92.9%）と下げており、看過できない。授業だけではなく、学級経営の中での信頼関係を問い直す必要がある。質問7「授業では、自分から進んで、友だちと話し合ったり、考えたり、まとめたりしていますか。」の肯定的評価は81.9%（前年度80.1%）と微増。未だ満足はいく数字ではないが、「関わり合いの質を高める」という研修テーマの副題を掲げている以上、上がり続けることに意味がある。「KGタイム」においては、質問10『『光』の時間は好きですか。』において肯定的評価が71.0%あり、「光」の時間への評価が向上していると思われる（前年度の児童アンケート質問9「英語は好きですか。」では、62.3%が肯定的評価であった）。「光」の授業のカリキュラム改善と同時に担任の授業参加が徹底され始めていることも要因の一つだろう。新設された質問20「困ったときに、友達や先生に相談できますか。」の否定的評価が37.9%あることは、質問5や6と同様に、教員と児童もしくは児童と児童の信頼関係の構築に弱さがあることを示唆している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート質問2「初等部の教育には満足している」の肯定的評価が89.2%となり、前年度(89.9%)並みではあるが、「強くそう思う」層に限ってみれば、43.0%（前年度35.4%）であり、初等部教育への追い風となっている。質問8「学校は、基礎的知識や技能が定着する授業を行っている」の「強くそう思う」が33.2%（前年度28.7%）質問9「学校は、基礎的知識や技能を活用する場面を取り入れた授業を行っている」の「強くそう思う」が31.5%（前年度28.7%）と増加している。基礎の徹底と活用場面の創出は初等部の課題として意識して取り組んできた項目である。 ・教員アンケート質問7「私は、計画的に授業を行い、児童に内容を定着させている」の「強くそう思う」が20.0%（前年度33.3%）質問8「私は、授業研究を積み、児童が魅力を感じる授業を展開できるように努めている」の「強くそう思う」が26.7%（前年度43.3%）と下落している。授業研究と授業計画は常に連動する。授業研究を怠ると児童の楽しさが奪われ、結局信頼関係の破綻や学級の不安定を生むことにつながりかねない。同様に気になるのは質問17「私は、研修部の教員研修計画に基づき、授業研究や公開授業を実施している」である。「強くそう思う」が33.3%（前年度50.0%）から数値を落とした。研修委員会として小授業の実施確認や内容への関わりが徹底できなかつたため、実施締め切り日までに授業が行われなかつたケースが多数あつた。このことが、本質問内容に直接影響を及ぼしたことが伺える。
<p>今後の方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小授業や公開授業の指導案開発において、実施計画が適切に遂行されているかのチェックを細やかに行う。 ・小授業に関する取り組みのマンネリ化が今年度の緩さを招いた。魅力ある企画や書きやすい指導案形式を開発し、教員団のベクトルを揃える。 ・クラスの人材において流動的にリーダーとフォロワーが生まれて機能する「シェアドリーダーシップ」の考え方をより一層共有し実践する。 ・「学級の自治力」に対するイメージが分散しているため、教員同士の話し合いの場を設け、理想の児童像のベクトルを揃える。ある程度、学級の自治力をはかれる指標やチェック事項を示す。

(自己評価)

A+=テーマに対する目標を達成した。

A=テーマに対する目標を概ね達成した。

B=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行しているが、達成にはまだ時間がかかる。

C=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行していない。

総合評価

- 初等部のキリスト教主義教育については、多くの保護者と子どもにしっかり浸透している。初等部の教育のベースだけに、今後も地道に取り組んでいく。
- 授業については、教師の工夫が保護者や子どもから評価されている。教員の授業研修への意識の高さが成果をあげている。しかし、「風」の時間、「力」の時間、「光」の時間（英語・国際）については、どのような力を子どもが身につけているかがわかりにくい状況となっていることがうかがえる。次年度の新学習指導要領の完全実施に向けて、「KGタイム」の位置づけなど抜本的な見直しが必要である。
- 生徒指導に関しては、担当中心に教員全体で発達段階に応じて具体的に指導しているが、今後も、児童が自らの判断で学校生活のルールを守ることができるよう継続して指導を続けたい。また、規範意識向上に関する指導について、さらに充実させていく必要がある。
- 児童アンケート質問5「授業は楽しいですか。」保護者アンケート質問2「初等部の教育には満足している。」についての肯定的評価が若干下がっている。授業だけでなく、学級経営の中での関わり合いのあり方を見直す必要がある。児童アンケート質問3「“Mastery for Service”を大切にすることを心がけて生活していますか」について、91.1%が肯定的評価をしており、研修テーマの具現化につながるものと考えている。今後もさらにキリスト教主義を土台とした建学の精神やスクールモットー“Mastery for Service”を根底に据えた教育の推進を図りたい。

2019年度の評価をふまえて2020年度に予定している評価項目、テーマ等

- キリスト教主義教育
- 教育課程・学習指導
- 生徒指導
- 研修（資質向上の取組）

第三者評価/学校関係者評価

アンケートの結果は、全般的に良い結果でした。各項目の評価が高いことに、教職員による日々の研鑽を感じることができます。授業や休憩時間の様子を参観していると、どの児童の表情にも明るさや積極性を見てとることができました。キリスト教主義教育、学級経営、生徒指導、教科指導等の取り組みが充実しているのだと想起されます。

児童を対象としたアンケートでは、「学校は楽しいですか。」という問いにおいて肯定的回答が86.7%、「授業はわかりやすいですか。」は90.8%、「授業では、新しいことをたくさん知ることができますか。」は89.2%、「授業は楽しいですか。」は82.4%という値になっており、高く評価できます。

一方、同一の質問に対する否定的解答の割合を昨年度と比較した場合、「学校は楽しいですか。」(6.9%→13.3%)、「授業はわかりやすいですか。」(7.2%→9.2%)、「授業では、新しいことをたくさん知ることができますか。」(8.5%→10.8%)、「授業は楽しいですか。」(10.8%→17.6%)とあり、否定的に受けとめている児童が増加していることがわかります。特に「学校は楽しいですか。」(6.9%→13.3%)と「授業は楽しいですか。」(10.8%→17.6%)において、否定的な評価の割合が1年だけで2倍近く増えている事実は無視できません。学校が楽しいかどうか、授業が知的に楽しいものであるかどうかは、学校生活の基盤に位置づくものであるため、児童、保護者、教員という三つの観点から分析・検討し、改善に向けた学びの場を具体的に設定する必要があります。

このことと合わせて、「困ったときに、友達や先生に相談できますか。」という質問において、37.9%の児童が否定的な解答をしていることに注意する必要があります。友達や先生に相談できる力や、友達から

の相談を受けとめる力は、「伝え合う力」としての言語の力の一つでもあります。4割弱が否定的な評価をしていることから、全体として「伝え合う力」としての言語力が十分に育っていない、という厳しい見方もできるでしょう。児童が気軽に相談できるような環境づくり（組織としての学校づくり）と、児童の相談できる力や他者からの相談を受けとめる力を育てる学級経営や授業づくりのあり方を検討、実践した上で、その効果を検証する必要があります。

・朝の礼拝に参加しました。一日の始まりの時、全校児童、教職員がチャペルに集い、共に聖書の言葉を聴き、讃美歌を歌い、祈り、話に耳を傾けることは大切なことです。キリスト教主義教育の土台は礼拝です。これからも誠実に守り続けることを願います。また、キリスト教主義教育は、目に見える教育活動だけではなく、学校の雰囲気、教員の姿勢が非常に重要です。

保護者に対しての「聖書講座」「教育講座」「聖書と讃美歌に親しむ会」等の取組は、初等部のキリスト教主義教育の理念の理解、共有からも評価できます。

・2020年度学習指導要領改訂に向けての取組、高学年では、教員の専門性、学習内容の系統性等から、教科担任制を取り入れ継続していること、通知表の評価基準の見直し等は、とても評価できます。英語の授業を参観した時、クラスの半分の人数で行っていました。そのことで児童一人ひとりが、英語でコミュニケーションをとる機会が増えていました。

・生徒指導に関しては、取組、児童のアンケート調査からは評価できます。しかし、課題点もあります。保護者の方に学校の取組を理解していただく方法を模索すること、教員間の共通理解等、児童、教員、保護者と共に理解を図ることを願います。

・教員の資質向上としての研修について、昨年度の今後の方策として、「全教員が実践を出し合う」「意欲的な実践の積み上げ」「共有」がありました。今年度も学校公開、大授業、小授業、指導案の形式改訂などを取組まれたことは、有効な方法として評価できます。

しかし、学校として取組はなされていますが、教員の意識が少し気になりました。教員同士でコミュニケーションを増やし、意識の向上を共に目指してほしいと願います。

これまで取組んでこられた授業の振り返り、省察を行い、児童のための、より質の高いキリスト教主義教育の授業を、今後さらに期待しています。

キリスト教主義に基づく全人教育とその意義が、児童と保護者に浸透していることがうかがえます。たとえば礼拝において、教員だけでなく児童が全校生徒の前でお話しをする取組は、話す者・聴く者にとって大切な心の養いのときとなっていることでしょう。そのように心を豊かに養われた子供の姿が保護者の学校に対する信頼につながっていると思われまます。これからも全人教育の「はじめの一步」が力強く実践されることを願っています。

授業というものは対象年齢が下がるほど、その運営は難しいと察します。子供の興味を引きつけ、分かる授業を行うことは容易ではありませんが、実際に授業を見学した際、協同や作業の時と傾聴の時のメリハリのきいた児童の姿が印象的でした。教員が授業構築を大事にしていることが、児童からの高い評価にもつながっていると思われまます。これは初等部において定着している授業研修の成果であり、改善の取組を意欲的に継続している英語教育にもその成果が表われていることが見てとれます。新しいことを学びたいという児童の好奇心に応えていく教育が引き続き実践されることを期待しています。

行事については、見学の機会をえた音楽祭で「お互いの精一杯を尊重する場と時間を共有する」ことの素晴らしさに触れました。授業においてもこの点が重視されていますが、学校をあげてのこの一体感は私立学校として大切な要素であると考えまます。今後とも、行事などを通して教職員と児童が一体となった学校づくりが継続されることを願っています。

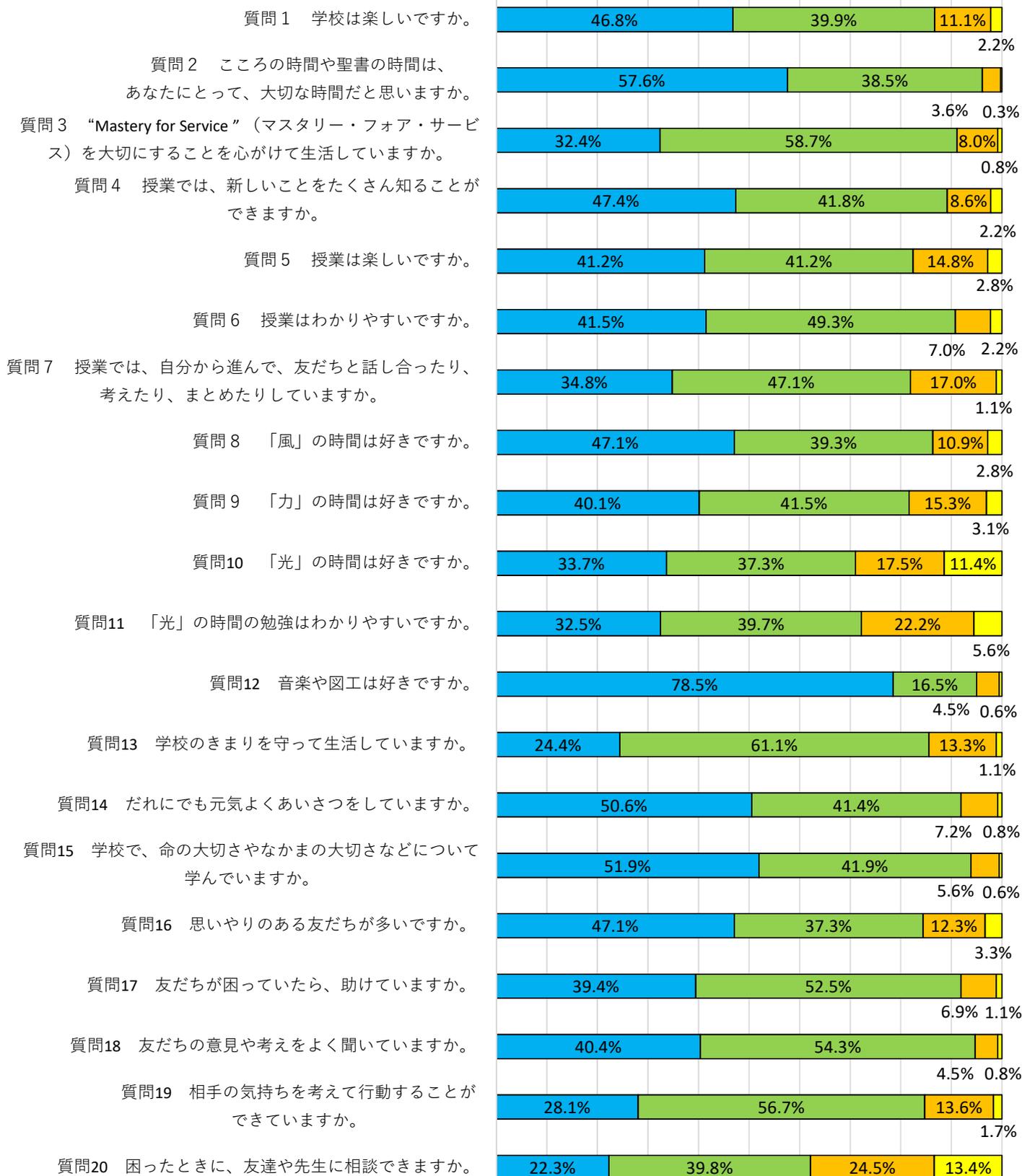
訪問するたびに、気持ちのよい挨拶で迎えてくれる児童が多いこと、そして仲間のために自ら動く児童が多いことに気づきます。挨拶やルール・マナーを大切にすることを育てることも義務教育段階の小中学生にとって大事な部分ですが、ルールやマナーのさらなる遵守・向上を目指して息の長い取組がなされるよう願っています。

全体として、学校の課題に真摯に向きあい、改善の努力を惜しまない教職員の姿が浮かびあがってくる自己評価であるとの印象を得ました。

2019 年度学校評価

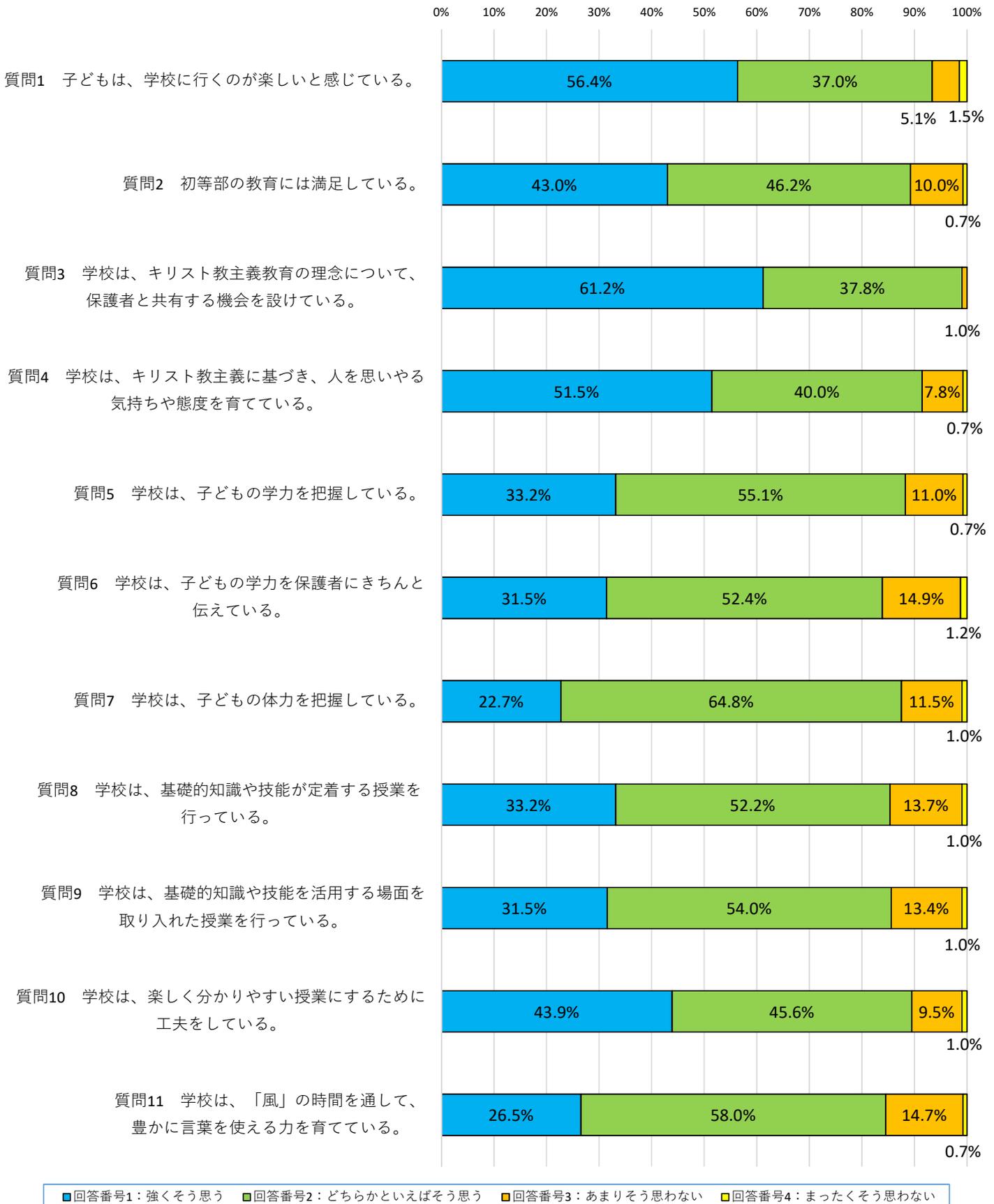
2019年度 学校評価アンケート集計結果
初等部・児童 3～6年生 (回収率 99.7% 361人/362人中)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



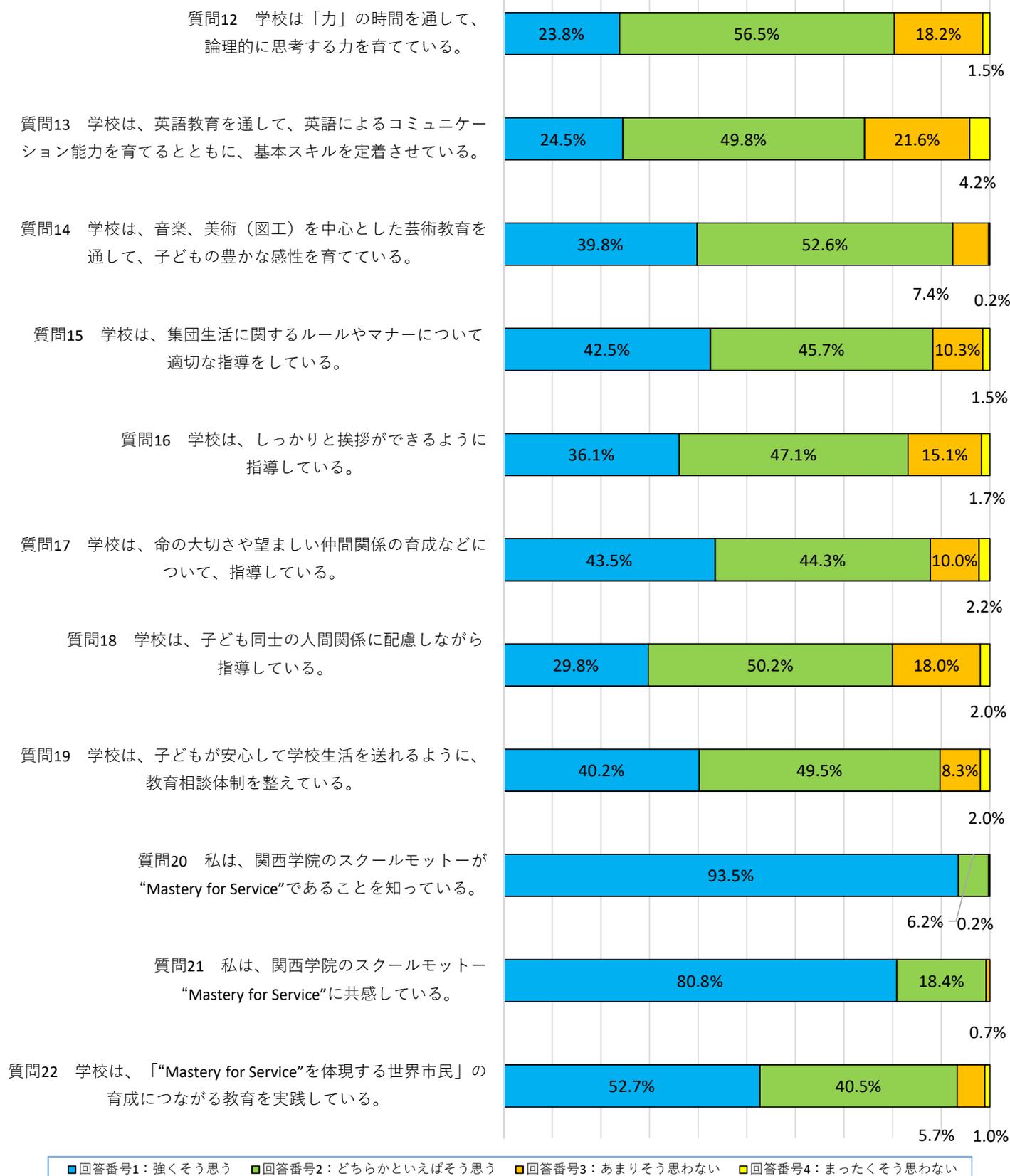
■回答番号1: 強く思う ■回答番号2: どちらかといえば思う ■回答番号3: あまりそう思わない ■回答番号4: まったくそう思わない

2019年度 学校評価アンケート集計結果
初等部・保護者 (回収率 75.2% 410人/545人中)

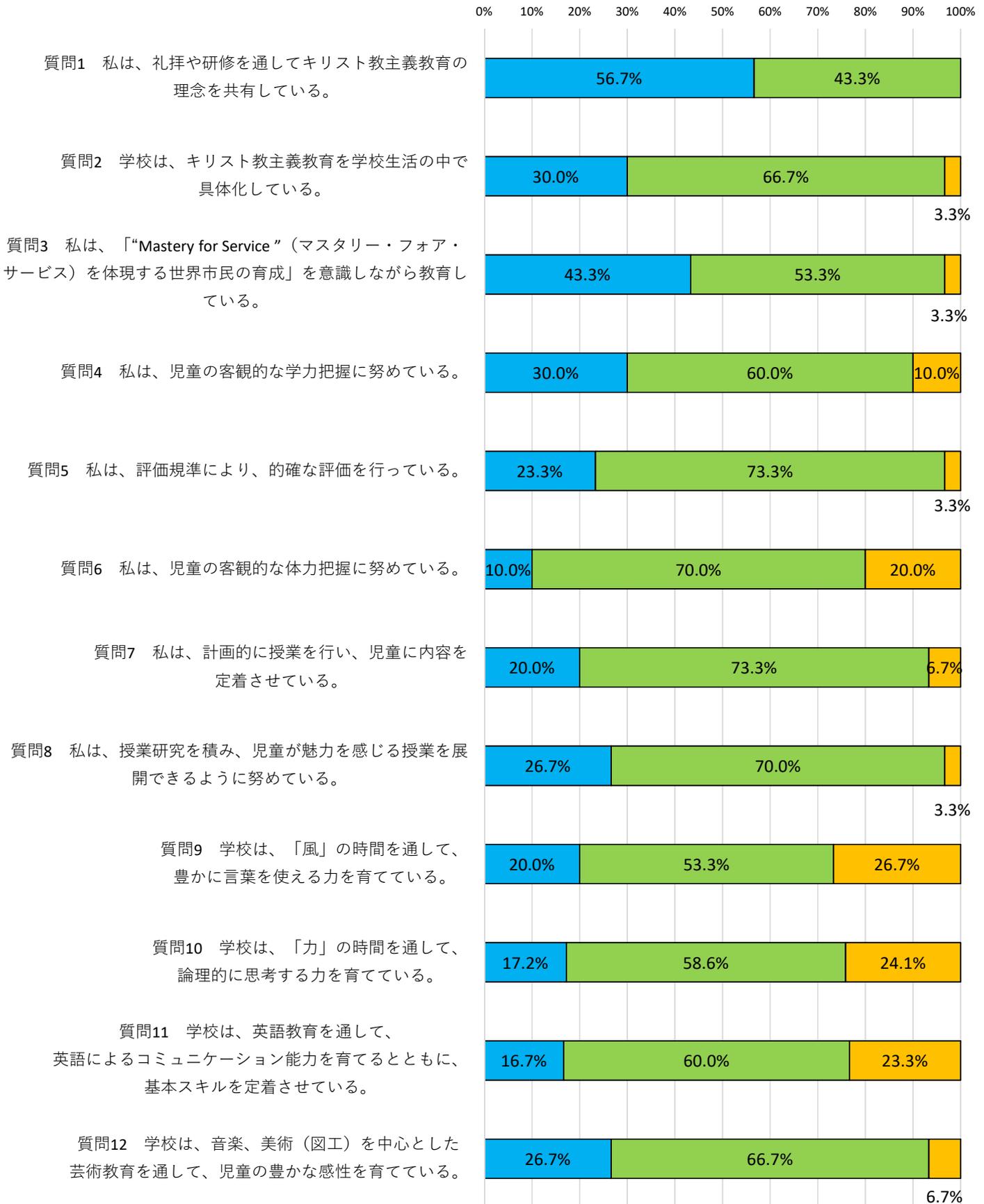


2019年度 学校評価アンケート集計結果
初等部・保護者 (回収率 75.2% 410人/545人中)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



2019年度 学校評価アンケート集計結果
初等部・教員 (回収率 100% 30人/30人中)



■回答番号1: 強くそう思う ■回答番号2: どちらかといえばそう思う ■回答番号3: あまりそう思わない ■回答番号4: まったくそう思わない

2019年度 学校評価アンケート集計結果
初等部・教員 (回収率 100% 30人/30人中)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

質問13 私は、挨拶や時間厳守など、社会生活をする上での基本的なマナーが児童に身につくよう適切に指導している。



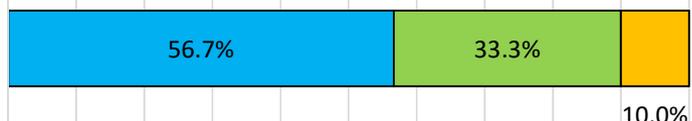
質問14 私は、命の大切さや良好な人間関係をつくることなどについて、学校生活の中で指導している。



質問15 私は、児童間の人間関係を円滑にするための配慮、指導をしている。



質問16 私は、一人ひとりの子どもが安心して学校生活を送れるように、配慮、指導している。



質問17 私は、研修部の教員研修計画に基づき、授業研究や公開授業を実施している。



質問18 私は、授業研究や公開授業を通して、自身の授業力の向上に努めている。



質問19 私は、関西学院のスクールモットーが“Mastery for Service”であることを知っている。



質問20 私は、関西学院のスクールモットー“Mastery for Service”に共感している。



質問21 学校は、「“Mastery for Service”を体現する世界市民」の育成につながる教育を実践している。



■回答番号1：強く思う ■回答番号2：どちらかといえばそう思う ■回答番号3：あまりそう思わない ■回答番号4：まったくそう思わない